

県境石

岩手県と青森県の県境、青森県階上町にある階上灯台の南側に小川の河口があります。



その小川の左岸を辿ると、小さな石碑がひっそりと佇んでいます。

この石が岩手県（洋野町角の浜地区）と青森県（階上町小舟渡地区）との県境を示す石碑です。

いやあ、こんな所まで行くことはなかなかないので、その存在には気付けないですね！

（川の上流から下流に向かって見たとき、右側を右岸、左側を左岸と呼びます。）



県境石を無事見付けることもでき、川岸を海に向かって戻っていくと、河口の先に変わった模様の岩があります。

よく見ると『堺』の文字が！
これは珍しい。海の中にある県境石です。

ここまで来たなら、是非、セットで見てもらいたいです！



海嘯死亡者の碑と赤石大明神

洋野町ではないですが、階上灯台まで来たついでに、潮風を全身に浴びながら海浜を散歩してみるのもいいものです。

灯台から北に向かって歩いて行くと見えてくる、小さな浮き球が吊るされた赤い鳥居の奥に赤石大明神の石碑が鎮座しています。

<赤石大明神の云われ>

『寺下観音』(青森県階上町にある観音堂にまつられている。)が、黄色い牛の背に乗りこの浜辺に上陸した。牛が「いつまでも観音様にお仕えしたい」と懇願したため、観音様は牛をベこ石(赤石)に化身させ、この地に置かれたという。

この浜が、昔「赤石の浦(うた)」と呼ばれていたため赤石と呼ばれています。

この地では、元々馬頭観音を信仰しており、その信仰と合わさり、赤石大明神としてまつられています。

『ベこ石(赤石)』を探して海を眺めていると、黄色っぽい石が目にとまります。

なだらかな形が牛の背のよう。この石がベこ石(赤石)です。

(灯台北側にトイレがありますが、そこから、海に向かって降りていくと目の前で見つけることができます。)

先ほどの赤い鳥居と石碑の左奥、赤石大明神の境内の小高い場所に明治の三陸地震大津波による犠牲者を供養するために建てられた海嘯死亡者の碑があります。

ここから海沿いに北上すると、まだまだ、津波に関する石碑や施設などがあるので探してみてもいいでしょう。

